

ぼくのうけた小さなしんせつ

福岡県 福岡教育大学附属久留米小学校 1年 江本 大輝

学校でプールがあった、なつのある日のことです。いつものように、学校からいえにかえるでんしゃにのりました。

その日はプールでつかれて、ともだちとはぐれてしまいました。ひとりではじめてでんしゃにのった日です。

「でんしゃからおりて……。」

と、知らない人からはなしかけられました。

びっくりしてまわりをみると、だれもいませんでした。

ぼくはでんしゃにのってそとのけしきをみていたけど、いつのまにかねてしまったのです。そして、だれか知らない人からおこされたのです。

その人は、えきいんさんにでんわをしてくれました。だれもいなくてこわかったです。すると、えきいんさんがきて、

「おかあさんのでんわは、なんばん？」

とききました。

いつでもすらすらいえるおかあさんのばんごうが、きんちょうしていえなかったです。きんちょうしたぼくに、えきいんさんはあめをくれました。やさしいえきいんさんは、いろいろぼくにききました。なんだかなみだがでそうになりました。

(いまなんじかな？おかあさんとあえないかな？)

といろいろかんがえました。いすにすわってじかんがたつと、えきいんさんが、

「じかんだよ。でんしゃにのるよ。」

とってくれました。小さなかみには、えきのなまえやじかんがかいてありました。えきいんさんがホームまでいっしょにきて、うんてんしさんになにかをいうと、

「なんかあったら、ぼくにいってね。」

とって、かみにかいているえきについたら、えきのおねえさんがまっているといいました。

(おかあさんもいるかな？おかあさんとあえればいいな……)

しんばいでしたが、やっとえきについたら、おかあさんがおねえさんといっしょにまっています。おかあさんを見たしゅんかん、うれしくなりました。

あとからおかあさんからききました。きやまえきのおねえさんが、ぼくがのったくるめえきから、一つひとつのえきにでんわで、ぼくのなまえとふくそうでさがしてくれたそうです。JRのえきいんさんみんながぼくをたすけてくれました。みんなの小さなしんせつが、ぼくとぼくのかぞくには大きなしんせつになりました。ありがとうございました。

なつやすみがおわって、またでんしゃにのるのがたのしみです。